

食料経済学特論Ⅱ (2単位)

担当者氏名 菅沼圭輔

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

「食料経済学特論Ⅰ」を受講していることを前提に、アジア地域の農業・農村経済の特徴に基づく経済成長と農業・農村開発の政策的課題について学習する。開発経済学に関するテキストを用い、テーマごとに内容を検討し、その上で受講者がそのポイントについてプレゼンテーションを行う形式で進める。そして開発経済学の理論の学術研究への応用について理解することを目標とする。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

アジア 経済成長 食料問題 農業構造調整問題
農村地域開発

◆授業の進行等について

	テーマ	内 容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	開発経済学の課題	講義のねらいに関する解説	本講義のねらいは、経済学の理論を通じて開発途上経済の基本問題と食料・農業問題に関する考え方を身につけることにある。 受講者はテキストの内容の予習し、講義を通じて、「分かったつもり」で済ませるのではなく事前に質問事項も準備しておくこと。 (毎回の準備・復習時間は、それぞれ1~2時間程度を目安とする)
2	経済発展の理論的枠組	誘発的制度改革に関する学習	
3	開発途上国の発展展望	経済成長と投資・貯蓄に関する学習	
4	人口成長と天然資源の制約	人口増加と資源制約の理論に関する学習	
5	資源の制約を打破するには	「緑の革命」に関する学習	
6	資本蓄積と経済成長(Ⅰ)	古典派の経済成長理論に関する学習	
7	資本蓄積と経済成長(Ⅱ)	新古典派の経済成長理論に関する学習	
8	技術進歩とその源泉	技術進歩の源泉に関する学習	
9	所得分配と環境問題	経済成長と貧困・所得格差に関する学習	
10	市場と国家(Ⅰ)	市場の失敗・政府の失敗に関する学習	
11	市場と国家(Ⅱ)	輸入代替工業化政策に関する学習	
12	市場と国家(Ⅲ)	世銀・IMFの「構造調整政策」に関する学習	
13	共同体の役割	途上国農村における共同体慣行に関する学習	
14	伝統と近代化	近代化の多様性に関する学習	
15	講義のまとめ	講義内容の応用方法に関する学習	

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名／著者／発行所 (発行年)

新版 開発経済学/速水佑次郎/創文社/2004 年

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名／著者／発行所 (発行年)

授業の中で紹介する。

◆評価の方法 (レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

テキストの予習レポート (50%)、授業中の発表 (50%)

◆オフィスアワー

月曜日の4限目終了後。その他の時間は事前にアポイントをとること。

◆その他受講上の注意事項

授業中に指示をする。